岡山和牛育成牛飼育マニュアル

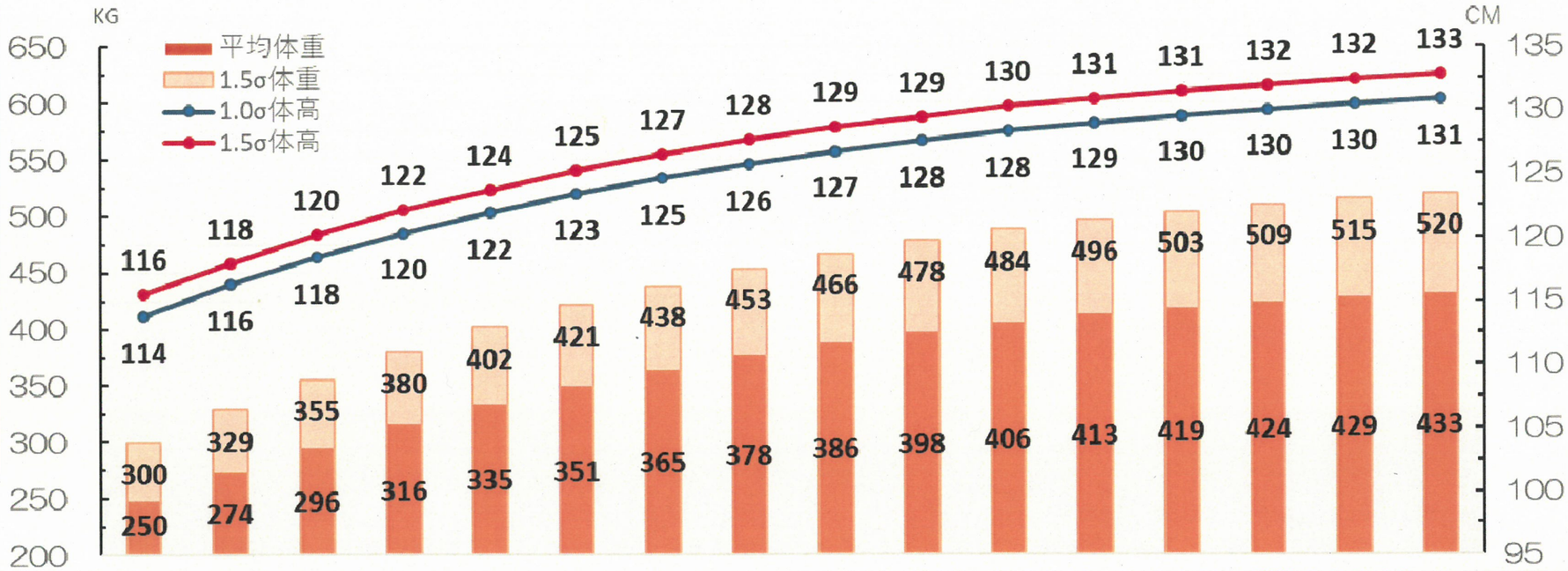
育成牛

配合飼料の切り替えは10日ほどかけてゆっくりと。自給飼料が低質な場合は良質乾草の割合を増やし、しっかり草を食い込ます。
種付けまでは大豆粕(できればソイパスがよい)を給与し発育を促す。体高が118cmを超えていれば13～14カ月齢で種付
近親交配が進むと受胎率が悪くなる傾向にある。保留する牛は血統を見つつ近交係数に注意

ポイント

- 朝と夕方に15分間発情観察
  陰部発赤,腫脹,粘液,乗合
  (発情発見シールを活用)
- 13カ月齢に達しても初回発情が確認できなければ獣医師に相談
- 受胎していても弱い発情兆候を示す牛がいる
- 9カ月齢までに発育(体高)が小さいものは繁殖雌牛として残さない

☆大豆粕は計量する
過剰は繁殖性に悪影響



	月　齢	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
給与例1	育成用飼料(パワフルFP)	1.8																分娩1カ月前から成牛の飼い方へ
	繁殖用飼料(連産きらきら)	1.8	2.5	2	2		2											
	粗剛な乾草(スーダン)	1	2	2	2		3											
	繊維源の多い乾草(フェスク等)		0.5	2	3		3											
	良質乾草(チモシー)	3	2.5	1	1		-											
	大豆粕(ソイパス)	0.3	0.3	0.3	0.3		-											
給与例2	育成用飼料(パワフルFP)	1.8																
	繁殖用飼料(連産きらきら)	1.8	2.5	2	2		2											
	粗剛な乾草(スーダン)	1	2	2	2		3											
	自給飼料(イタリアン、スーダン等)		1	2～3	3～4		3～4											
	良質乾草(チモシー)	3	2.5	1	1		1											
	大豆粕(ソイパス)	0.3	0.3	0.3	0.3		-											

JAグループ(農協・全農岡山県本部・JA西日本くみあい飼料(株))・(一社)岡山県畜産協会　畜産研究所監修

令和４年３月作成